

Hanako Mama

〈Hanako 100人ママプロジェクト〉
マガジンハウス Hanako編集部

〈100人のママプロジェクト〉

女性の30代は「転機」のタイミング。仕事だけでなく、子供を産み、育てる。

そして子供を育てながら働くことを選ぶ人も多い。

子供を育てることだけでも精一杯なのに、働きながら家事や育児を両立することに、大変さを感じる人はきっと多いでしょう。

先輩たちは、子育てしながらどのように社会復帰する準備をし、仕事と子育てを両立させているのか。

Hanakoではママたちを主役にした、育児をしながら働く女性の仕事復帰の現状、

仕事と子育ての両立するためのポイントを、

体験談とともに伝えていくプロジェクト〈100人のママプロジェクト〉をスタート。

Hanakoママというサイトを始めます。

子供が大切なのは当たり前。だけど子供優先で、いつも自分のことは後回し。

頑張っているけれど、うまくいかないこともある。

私はちゃんとママでできているのかな、なんて罪悪感に押し潰されそうになることもある。

そんなときに、同じ経験や悩みを持ち、乗り越えてきた彼女たちの言葉は、

そっとあなたに寄り添い、背中を押してくれるはず。そして、あなたらしく生きていくためのヒントとなる。

綺麗事だけじゃない、リアルなママの声をお届けします。ママはもちろん、これからママになる人も。

100人100色の生き方をご紹介します。

「ひとりとして“普通のママ”はいません。仕事との両立、子供の健康、

子供の友人関係・ママの友人関係、祖父母との関係、パパとの関係.....。

悩みの種類も様々。隣のママは実際どうやってるの？ 聞くに聞けない、聞きたくても聞き出せない。

そんな答えを100人のママにロングインタビューします。

今の、そして、これから起きるかもしれない切実な悩みを知り、共感し、解決法の緒を見つける。

ママである限り、切り離すことができない悩みに寄り添い、励ますサイトを作っていきます」



Hanako編集長

杉江宣洋

〈“ママ”を主役に発信していく理由〉

ハナコママ〈100人のママプロジェクト〉を担当するのは、1987年生まれの人2人。稲見悠夏と大月唯。

大月は1歳のママ。子育てしながら出版社でフルタイムで働いている。

〈100人のママプロジェクト〉の発足のきっかけは、ママとして働く大月自身の悩みや葛藤でした。

――

稲見「私たちのまわり世代はママが増えてきたけど、フルタイムで働けている人って少ないよね。ただでさえ出版社ってハードワークなのに、子育てしながらフルタイムで働くって想像できない。みんなどんなふうに働いているんだろう？」

大月「産休・育休をとって、仕事に復帰する際に、参考になるような情報がなかなか見つからずにとっても困った」

稲見「意外！ママに向けた媒体ってたくさんあるよね？」

大月「子育てに関してはたくさんある。だけど、私は働きたいから、働くママがどんなふうに復帰して、どのように子育てと両立して働いているのかを知りたかったんだよね。結局その時は、ハイキャリア向けの媒体を読みたんだけど、「子育てしながらの仕事復帰、しんどそう。いやだなあ」というネガティブな感想しかでなかった。私は彼女たちのようなスーパーマンじゃないし、私にとって大変なことが、彼女たちにとっては簡単にこなしているようにも思えて、余計落ち込んでしまう…。こんなに悩んで、苦しいのは私だけ？って思ったり」

稲見「雑誌やSNSって、キラキラしている、いわゆる“ばえる”ことをアップするのがメインだもんね」

大月「復帰後の働き方って、謎に閉ざされているというか、SNSとかにもあまり上がってこなくて。写真に撮るような華やかな場面なんてそんなに無いし、地味なことの繰り返し。だから、想像がなかなかつかない中で、ママたちのリアルな生の声を知りたいって思ったんだ。子供が大切なのは当たり前、だけど子供がいるから、って理由でキャリアを諦めたくないし、自分自身の生き方も大切にしたい」

――

同じように悩みを抱え、働くことへの意欲と不安を抱えたHanako世代のママもきっといるはず。

そういう人たちのために、子供のための情報だけではなく、ママ本人の生き方の情報を届け企画。

〈100人のママプロジェクト〉で発信していきたいと考えています。



〈記事構成について〉

【掲載】

Hanako HPにて2023年1月よりスタート。月に4回更新。毎週木曜日更新予定。
1人のインタビューを前半・後半とわけて掲載。

【記事内容】

ロングインタビュー。

取材相手のライフスタイルや仕事スタイルがわかるような写真を紹介。

インタビューは、その人自身の、ママとしての働き方や生き方をメインに、
どんな葛藤があり、どう向き合ったかについてお話をお聞きます。

【インタビュー候補者】

フリーアナウンサー・堀井美香さん

（会社員時代に子供を2人出産。現在はフリーで活躍中）

作家・松田青子さん

（お子さん2人を育てながら、作家として活動）

漫画家・鳥飼茜さん、執筆家・寿木けいさん、犬山紙子さん etc

著名な方だけでなく、一般企業で働く方にもインタビュー予定。



〈記事イメージ〉



〈100人のママプロジェクト〉 vol.1 前半 イラストレーター／よしひろさん

LEARN | 2022.11.24

大学時代、雑誌が好きだったこともあり編集者やデザイナーの仕事に憧れをもったよしひろさん。ただ、バンドと会社員を両立するイメージが湧かず、就職活動をしそびれてしまい、それなら絵を描くことならどうだろうかと、雑誌のイラストレーターを志すようになりました。バンドのフライヤーを描いたり雑誌を画いたりしながら、並行してバン屋さんでのアルバイトや、設計事務所の経理など派遣OLをしていました。

SHARE [f](#) [t](#) [p](#) [o](#)

子供を育てながら、好きなことをして働くということ。



実は2007年に設計事務所をクビになり、これはチャンスだと思い、失業保険をもらっている間に、「SAVVY」という関西で発行している雑誌にイラストを持ち込みました。実はそれ以前も持ち込みには行っていたのですが、専業でないといけないと言われていたんです。運よくすぐにお仕事をいただいて、結局1冊まるまる私のイラストで埋め尽くされている号がデビュー作となりました。そこから数年間雑誌のメインを飾らせていただき、今考えてもなんでもラッキーだったんだと思います。



——とくに大変だったことは？

子供が産まれたタイミング、大変というか、不安で仕方がありませんでした。今小学2年生になる息子が産まれた当時は、クリエイティブ職で子供がいながら活躍している人がいないような印象をもっていました。周りには結婚出産を促さぬように産前まで仕事をし、病院でも電話を受けていました。突っ込んだ部分がなくなったりしよう、仕事を振りづらいたと思われたらどうしようという気持ちが強くて。ただ、会社をクビになったときのように、大変だと思ったときがターニングポイントになることが多いです。結局、出産したことで『ミルクジャボン』の連載をもったり、取材していただく機会が増えたり、仕事に幅が広がり、心配していたことがチャンスになっていきました。



——独立して良かったことは？

誰かに指示したり説明したりするのが極端に苦手なんです。こだわるところにはとことんこだわるし、ひとりであるのが好き。だから、フリーランスでいることは良いことばかり。それでも仕事をする上では、自分の好きなものばかり突き詰めていると収益がつかなくなってしまうので、クライアントがいることが、私にとってはすごくやりがい。仕事を始めてから、0から作るより、決められたゴールに対して最も良いものを出す方が得意なんだと知りました。そのバランスを取れることが、イラストレーターという仕事が好きである所以なのかもしれないです。

〈広告プランについて〉

【タイアップ記事 / 掲載費G100万円 + 制作費N40万円】

Hanako編集部による取材・撮影をして記事化します。

10,000PV（ページビュー） 想定 / 1記事あたり。

読者組織ハナコラボメンバー（25名程度ママが所属）の起用であれば、こちらの費用内で実施可能です。

Hanakoの公式Facebook, Twitter, Instagram（Stories）での記事拡散投稿3回付。

（オプション）

・著名人（文化人、タレントなど）の起用：N20万円～

・ブースト：G50万円～

【サンプリング / G40万円 + 実費】

子どものいるハナコラボメンバー10名へのサンプリングとアンケート回収を行います。

子ども向け商品の場合は、お子さんの年齢の希望も承ります。

【リール動画制作 / G200万円～（タイアップ素材流用の場合はG100万円）】

縦型動画を制作し、Hanakoの公式Instagramで配信します。

15～30秒程度。